

頑張れ！ VIB

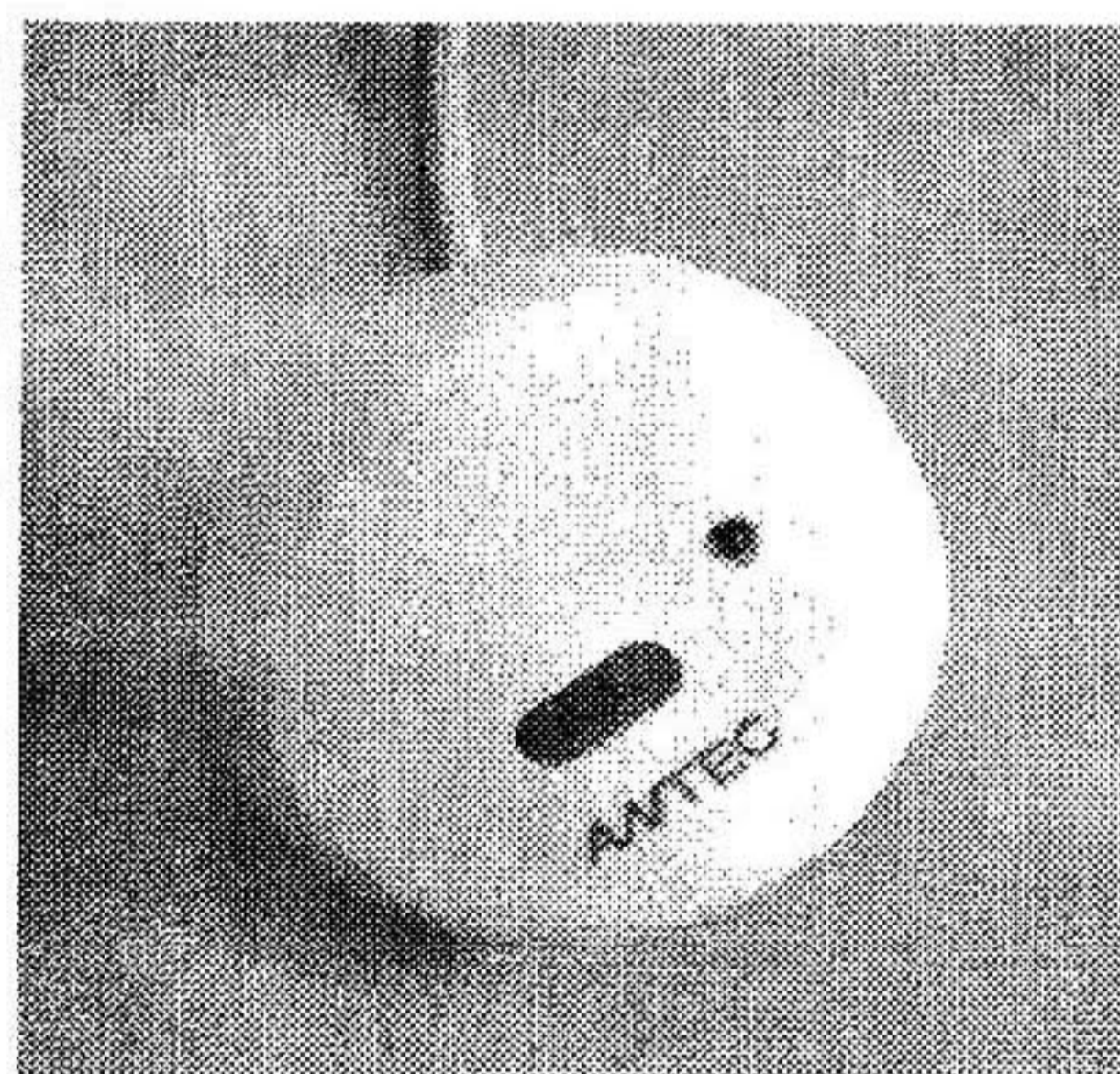
□□ 92

「いつまでも技術開発の仕事が続けたい一心で独立した」。アンテックの末石建二社長は、大手医療福祉機器メーカーのオーシー技研（岡山市）で製品開発に携わっていたが、30歳を迎え独立を決意した。当初は通信機メーカーと契約、修理や保守関連を手掛けていたが、友人の備前焼作家から頼まれた窯だきの手伝いをきっかけに、陶芸用支援機器の分野に進出した。

アンテック

したが、窯だき支援装置だ。薪の燃焼状況を検知して、薪を投入する時期や本数を音声で案内する自信作だった。

いさんで地元の備前焼作家に売り込んだ。が、思うように売れない。ユーザーの陶芸家は生産者であると同時に芸術家であり、個性を重視する彼らには、便利な自動式装置は過剰装備でしかなかったのだ。そこで、ユーザーの求める窯内温度とその上昇、下降を表



大手電機メーカーから引き合いが相次いでいる放火検知センサー
▲……………する作家に限ると9割以上が同社製品を採用しているという。
また、太陽光の影響を受けない同装置の性能に、あるテーマパークが着目し、アトラクションの安全装置用としての実績もある。

示する機能に似合った温度計を発売したところ、使いやすさや低価格が受け大ヒットした。

その後、温度や焼成時間などの設定が対話方式で簡単にできる一般向けの窯だき支援装置も発売。プロ向けのガスバーナー用燃料自動停止装置も好評で、現在では備前焼作家の約7割が導入、ガスバーナーを使用

04年4月期は新製品の放火検知センサーの開発などに専念したこともあって、売上高はピーク時（02年4月期）を20%下回る6000万円にとどまった。05年4月期は一転、2億円を見込む。直径68ミリの世界最小で低価格の放火検知セン

陶芸用支援機器で飛躍



末石建二社長
のプロフィール＝
84年（昭59）近畿
大工卒、オーシ
一技研に入社。
91年アンテック
を個人で創業、
97年法人化。現在、美作大学講師
も務める。岡山県出身、43歳。

サーに、大手電機メーカーなどから引き合いが相次ぎ、欧米や韓国への輸出も決まったからだ。1社の炎を74社先から検知する能力があり、今後「応用商品を次々と投入していく」（末石社長）考えた。

（金曜日に掲載）

◇所在地＝岡山県邑久町、0869・22・2155
◇創業＝91年9月
◇資本金＝1000万円
◇ホームページアドレス＝www.w.antecc-japan.net/

窯内温度計が大ヒット

中堅・中小・ベンチャー